

令和5年度第3回太宰府市総合戦略推進委員会会議録
(まちづくりビジョン会議)

1 開会及び閉会に関する事項

- | | | |
|---|-----|--------------|
| 1 | 日 時 | 令和6年3月28日(木) |
| | | 午後1時00分開会 |
| | | 午後2時20分閉会 |
| 2 | 場 所 | 太宰府市役所3階 庁議室 |

2 委員出席者

委員 長	八 尋 茂 雄
副委員 長	八 尋 和 郎
委員	青 山 博 秋
委員	池 田 昌 太
委員	小 川 祥 平
委員	亀 崎 弘 記
委員	杉 春 華
委員	森 憲 太郎
委員	柳 瀬 隆 志
委員	結 城 茉 優

3 執行部

市 長 部 局：楠田市長・原口副市長・轟総務部理事・宮原経営企画課長

4 議題

- (1) 令和6年度施政方針・当初予算について

5 概要

議題(1) 令和6年度施政方針・当初予算について

<市長説明>

- ◆ 市政積年のもしくは社会先進的な課題の解決に果敢に踏み出していく「令和の都だざいふ課題解決予算」と銘打ち、総合戦略の中の次の5つを最重点とした予算。
 - ・ 危機管理の徹底強化
 - ・ 子どもまんなかの施策展開
 - ・ 市民と交流人口・関係人口の相互発展
 - ・ 新しい公共をテーマとした仕組みづくり
 - ・ 歳出入一体改革の推進
- ◆ 就任当初は240億円ほどだったが今回300億円の大台を初めて超え、さらに市民ニーズに応えられる予算組みとなった。
- ◆ 予算の裏付けとして、本年度18億円を超え飛躍的に増加しているふるさと納税や毎年着実に増加している市税収などにより歳入が100億円を超え、自主財源の割合が増えてきたことが考えられる。
- ◆ 予算のうち最重点の項目として、
 - ・ 危機管理の徹底強化には、能登半島地震で課題となったトイレの問題に対応するトイレトレーラーの導入や防災備蓄として簡易トイレの購入などの取組を行う。
 - ・ 子どもまんなかの施策展開には、小・中学校給食の3割程度の助成や孤独・孤立対策、世界に羽ばたく人材育成、九州国立博物館ツアーズ、スケートボードパーク場の整備、産前・産後ケアパッケージなどの取組を行う。
 - ・ 市民と交流人口・関係人口の相互発展には、経済税収効果の向上とあわせてオーバーツーリズム対策、令和改元5年の記念イベントなどの取組を行う。
 - ・ 新しい公共をテーマとした仕組みづくりには、災害や教育、福祉など行政だけでは賅いきれない、手の届かない課題に対して、自治会や民生委員、企業などと連携しながら新しい公共的な枠組み、仕組みづくりを行う。
 - ・ 歳出入一体改革には、民間プールを活用とした小学校・中学校の水泳授業の委託など効率的な行政運営のもと市の経済効果、税収効果を高めていく取組やDX、すぐやる班など市民のニーズにスピーディーに的確に答えていく取組を進めていく。

<委員意見・提案>

- ◆ 新規項目が多いが、職員からの提案項目とトップダウン項目の割合はどれくらいか。

<市長説明>

- ⇒ 災害対応のトイレトレーラー、防災備蓄機能については、既に職員が視察など実施していたため、提案としてスピーディーに出てきた。SNSで子どもたちから直接要望をいただいたスケートボード場についてはある種トップダウンである。全体としては半々くらいである。
- ◆ SNSで子どもから意見をもらい活用することはよい取り組みだと思う。関連して、ひきこもり、不登校、DV、モラハラなどについて、市に電話で相談するところがあるのはすばらしい取り組みだと思うが、自分が子どものことで悩んだ時にLINEで相談で

きるところがなかった。他自治体ではDVの相談をする公式LINEがあったりする。ひきこもり・不登校、モラハラ、DVなどの悩みを相談するところ、市長に意見を言えるところが公式LINEなどSNSのDM以外でもあればよいと思う。市によってはLINE、電話以外にチャットなどもあるが、LINEの方が相談しやすいと思う。

◆LINEのユーザーは多いが、情報流出の面が怖いと思う。

<市長説明>

⇒子どもたちからのDMは大体夜に届くため反応、返信しやすいが昼間などは難しい。

公式LINEも市長に直接となると、掛り切りになってしまうので現実的ではない。また、公式LINE作成時は技術的に双方向性が難しいこともあって一方向になっている。ただ、何かしらのツールは考えたい。私だけでなく、職員全体、または外部的な力をお借りしながらできるだけスピーディーに思っている。

◆にしてつストア レガネットに置いている「梅」プロジェクトの製品は選抜されているのか。

<市長説明>

⇒販売に至ったのがにしてつストア レガネットのみであったこと、販売、支払いにあたりバーコードの有無や在庫の関係があり、販売する商品が決まっている。今後何か販売方法があればと考えている。

◆ごみ減量の推進として段ボールコンポストの補助金があるが、段ボールコンポスト関連の資材などに対して市から補助が出るという仕組みか。

<事務局説明>

⇒段ボールコンポストの裾野を広げていくため、コンポストの普及を委託している団体が開催する講座について、通常は代金がかかることを助成し、市民が講座を受けやすくする取組である。直接店舗等で購入されたものを助成するものではない。

◆事例の紹介にはなるが、空き家の利活用と地域コミュニティーの醸成ということで今週県内の自治体と協定を締結した。空き家を一軒購入し、私たちの商品でDIYをして空き家を再生しようという取組をしているが、近隣の方にすごく興味を持っていただいている。壁紙の貼り方や床の張り替えの仕方とかを知りたいということで、様々なワークショップを行っている。個人の資産に対する補助とかはなかなか難しいが、民間とうまくやることによって、空き家の利活用の仕方やDIY型の賃貸方法など、PRや移住促進にもなるということで協定を締結しているが、何か太宰府市でも検討してみるとよいのではないかとと思う。

<市長説明>

⇒新しい公共とは、行政だけでは手が届かないところを民間の方や市民の方とともに取り組んでいくことであり、空き家というのは論点の一つであるため、同じ形であれば、早速新年度やりたいと思う。加えて何か新しい取組としてご提案いただければ、積極的にやっていきたいと思う。

座談会としてイメージしているのは自治会や商工会など地域の名のある団体の方が最初にあるが、加えて、民間の特に太宰府に縁がある会社は当然ながら、他自治体内でも構わずどんどんやっていきたいと考えている。

- ◆ ふるさと納税は自主財源の15%以上を占め非常に重要なポジションであり、ふるさと納税を強化していくという方針は変わらないと思うが、理想を言えば企業誘致をしたり地場産業の支援をした上で、ふるさと納税の返礼品として活用できればいいと思う。今のところは現状のものを生かして、いずれはふるさと納税につながるような地場産業の育成ということを考えているのか。

<市長説明>

⇒完全に答えになっているか分からないが、ふるさと納税は伸びてきているものの9割が市外産であり、本当の意味での市の税収効果の広がりはないところもある。「梅」プロジェクトは実施計画を民間と連携して作成しており、栽培、収穫、加工、販売と民間の力を借りながら行うことで、地場産が増え、関係する事業者の方も誘致できるのではないかと皮算用をしている。ただ、梅のロットが少ないなかで、市として望むような形で事業を興してもらえるかと考えると難しいため、逆にアイデアをいただければありがたいと考えている。

- ◆ 九州国立博物館のツアーはすごくいいと思う。そろそろ九州国立博物館は20周年になるが、入館者数は少しずつ減っている。参道の人数が増えても、博物館の人数は増えておらず循環していない気がするため、仕組みづくりなど九州国立博物館と問題意識を共有して盛り上げていき、九州国立博物館が市民の誇りとなるように持っていければいいと思う。

- ◆ 九州国立博物館はミュージアムホールが改修となり特別展がストップするため、入館者数などを気にしている。人数的な拡大などを力をいれてやっていただけたらと思う。

- ◆ 以前より観光回遊ルートがあがっているが、新しい観光回遊ルートの拡充という意味か、それとも新規の事業ということであれば、具体的な計画を教えてください。

<市長説明>

⇒相互発展の観点からすると、市民の方にも生きがいとして、何か受け入れをやってもらいたいというのが出発点にある。インバウンド向け体験メニューとして古民家に呼んで食事を作る体験などある。地域のアクティブシニアをおもてなし人材として募集を行い、本市に長く泊まってもらいお金を落としてもらおうという意味では、今までやれていないことなので新しいことと認識している。

多地点回遊は外国から呼び寄せることも含めて書いており、今まで具体的にやってはなかったことになる。

- ◆ 観光について、太宰府はアクティビティーという形で検索すると全くヒットしない。LINEの話があったが、一般論での動線ということを考えてやっていかないと、自己満足的な形に陥ってしまってもったいない。国内の観光客もかなり多いため、アクティビティーというのを具体的に打ち出さないとまったくない。

その中で菅原道真公、太宰府天満宮にまつわるコンテンツで流れを考えると、市外になるが天拝山や鯉石など、一連のコンテンツとして打ち出していないと、求めるニーズに合わないことがあると思う。以前から市の計画で、DMOという言葉が出てくるが、全国的に結構空振りのところが多い。そのくらい難しいことであると思うが、アクティビティーを打ち出す母体としても、一日も早くつくっていただきたいと思う。

<市長説明>

⇒来年度はモデルの回遊ルートの提案がある。中身が決まった際には、説明させていただきたい。

- ◆放課後子ども教室について、結果報告や発表のほうに力が入り、誰のため何のためにやっているのということが抜けているような気がする。また学校、授業の延長じゃ成功しないと思うため、子どもの自主性など、子どものためにどういうことをするかを考えてやってほしいと思う。

<市長説明>

⇒放課後子ども教室について、子ども・学生未来会議と組み合わせるような形で実施してみたが、たまにあるイベントという観点から抜け出せていないところはあり、普段から継続的にあるべきと感じた。放課後子ども教室という部分だけに収まることなく、子ども全体の見守りという意味で、社会全体でどう見守っていくか、学んでもらうか、何か市としても24時間365日サポートできるようなシステムについて考えていきたい。

- ◆トイレトレーラーはどのような運用をしていくかは大事だと思う。全国に派遣することも大事ではあるが、正月とかトイレを探される方もいるため、災害だけではない、いろんな活用方法の検討をされてはどうか。

<市長説明>

⇒正月の西鉄太宰府駅前なり人が多いところで使ってもらい、PRしてはどうですかと提案をいただいております。観光客が多くトイレが足りていないこともあるため、やってみたいと考えている。また、何か市民の方の体験を考えたいと思う。

- ◆福岡県は歩いた歩数でポイントが溜まっていく健康アプリを作っている。ポイントは店舗で使用できるが、太宰府の店はあまりない。県は独自にアプリを開発しているため、市内を歩いてもらい、市内でポイントを使うようなものなど、一緒にやられたらと思う。観光回遊ルートもそうであるが、健康づくりで歩いている方だけでなく、観光回遊ルートなどいろんな活用が多分できるのではないかと感じた。

- ◆すぐやる班において鳥獣被害対策にも触れているが、広げすぎると收拾がつかなくなるため、どのようなものを想定しているのかを教えてください。

<市長説明>

⇒構成としてはリーダー1人と班員4人の5人で想定しており、リーダーも班員も、基本的には役所OBやリタイアされた方を考えている。最近イノシシ被害などが問題化しているため、鳥獣専門が2人、それ以外のことをやる方が2人、1人にリーダー的に総括してほしいとは考えている。また、最近はSNSなど直接相談が来るケースが結構多く、私が秘書、副市長をはじめ担当に振りながらやってきたが、担当は担当の仕事をやっているということで、時間がかかる可能性があるため、すぐやる班でできることは積極的に集約して、スピーディーにやれるようなことから始めたい。今までは私の直轄ではなかったため、密に連携を取りながら、直轄にしていきたいと思う。

- ◆すぐやる班の募集はどのようなふうに行っているのか。

<事務局説明>

⇒今回、有害鳥獣の2人は新たに追加する形になるが、専門的なところもあるため、市

のホームページやハローワークなどにおいて、イノシシ対策などに意欲があるような方を年齢を問わずに募集を考えている。

◆市民全般に関わることで、市民にやってもらいたいことの募集は「えっ、そんなのやってたの」とかいう声を聞くため、手法を考えてほしい。

<市長説明>

⇒座談会をやりながら意欲がある方が多いなと思えば、職員OBや市民の有志の方などに登録していただいております、何か手助けしてもらおうことまで踏み出したいと考えている。いろいろな方を活用しないと回っていかないため、管理も含めて、外部の方がやっていただくなどお互いにマッチングしていきたいなと思っている。